

第7回海外酪農視察研修報告○ドイツ



DMK社

DMK社はドイツ最大の乳業メーカー。酪農協同組合系の乳業メーカー2社が合併し、2011年に誕生した。組合員の酪農生産者は1万戸以上、生乳処理量の国内シェアは24%にのぼる。ドイツ北部を中心に23工場が稼働し、牛乳やセミハードチーズ、ヨーグルトなど多彩な牛乳・乳製品を製造している。同社のシュバイガーCEOは視察団とのプレゼンテーションで「将来的に牛乳は食料品の中で重要な地位を占めていく。日本とドイツで互いに協力し合っていこう」との見通しを示した。

●生乳取引

DMK社との生乳取引には「メンバーシップ」への加入が必要。加入した酪農生産者は、同社以外の乳業メーカーに生乳出荷できない。メンバーシップからの脱退表明後も2年間の取引継続が義務づけられている。

乳価は酪農生産者も参加する会議で決定。乳代は各生産者の乳成分と衛生的乳質の評価に基づいて支払われる。ドイツの乳価は36円/kg(2012年11月現在、1ユーロ=105円換算)と安価であり、乳製品市況により月単位で改定される。そのため酪農生産者はコスト意識が非常に高い。

●酪農生産者とのコミュニケーション活動

DMK社は酪農生産者とのコミュニケーション活動に積極的だ。地区総会(年35回開催)や小グループによるディスカッション(年80回)などを通じ、酪農生産者が同社の事業展開に積極的に発言している。毎月発行するメンバーズマガジンには製品紹介や市場動向、酪農技術などを掲載。農業展示会や若手酪農生産者の研修なども同社主催で頻繁に開催されている。



メンバーズマガジン

生乳取引の基準

①乳質検査		乳成分検査、生菌数検査、体細胞数、抗生素質、加水について、旬1回検査を実施
	クラス I	生菌数<10万/ml 体細胞<40万/ml 抗生物質残留なし、加水なしで乳業工場に出荷できる
②乳質評価	クラス II	クラス I 基準を連続して逸脱した場合は出荷停止(乳質に係わる生産者指導は受入工場スタッフが行う)。乳価より差し引き(生菌数-2%, 体細胞-1%, 抗生物質-5%)
	クラス S	細菌数<5万/ml 体細胞数<30万/ml 加水、抗生素質残留なし
③乳成分スライド価格の支払基準		乳脂脂肪率4.0%を基準に1.0%アップで2.5% 乳蛋白質率3.4%を基準に1.0%アップで5.0%

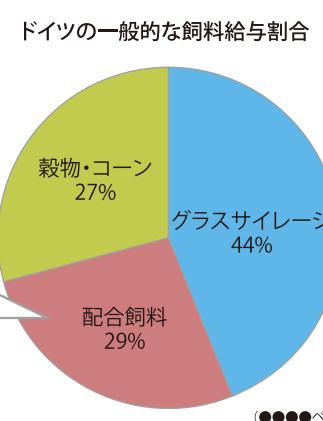
※ニーダザクセン州の平均(月3回検査の結果)
細菌数2万/ml、体細胞数23万/ml、氷点-0.525H°、比重1.030、乳脂肪率4.15%、乳タンパク質3.38%

LUFA NORD-WEST

オルデンブルグにある調査研究機関。土壌、環境、種子、飼料、食品の5分野の研究所で構成。顧客は酪農生産者や乳業工場、肥料、飼料、種子メーカーなどと幅広い。酪農生産者の乳代を決める乳成分検査を実施しているほか、飼料の検査・分析等も実施。



LUFAの外観



配合飼料の給与割合は日本(50%以上)に比べ低く、飼料購入費を抑えていることが分かる。

注: 配合飼料の内訳は穀物 50%、大豆粕 28.1%、その他(糖分や柑橘類など) 12.7%、残りはミネラル成分
注: 草地は一般的に、2~4年間隔で更新する



DMK本社(ブレーメン)にて

東京での事前研修
視察を前に東京で事前研修が行われ農畜産業振興機構調査情報部の矢野麻未子氏が、EU(欧州連合)とドイツの酪農情勢について講演した。

EUの酪農について矢野氏は、①生乳生産量が年間約1億5000万t、②牛乳・乳製品自給率109%の純輸出地域、③近年は戸数の減少と經營規模の拡大が顕著などと説明。中でもドイツはEUの価格支持や条件不利地域

の地域差が問題となつており、2013年初めに予定されているCAPの見直しが、酪農の発展にどのような影響を与えるか注目されている」と述べた。

※CAP=農産物・加工品の価格支持や条件不利地域に対する対策などを柱とするEU共通の農業政策。2013年の改定で条件不利地域への補助抑制が検討されており、ドイツ、フランス両国は山岳地帯の酪農経営に深刻な打撃を与えるとして強硬に反対している。



当社・東京支店で行われた事前研修

研修行程			
月日曜	時間	滞在地	内 容
11/12 (月)	午後	東京 成田	〈空路にて北海道各地→羽田〉 結団式 「E Uの酪農業情勢について」講演 (当社東京支店) 【成田泊】
11/13 (火)	午前 午後	成田 ブレーメン	〈空路にてドイツ入国(時差-8時間)〉 成田→フランクフルト→ブレーメン 【ブレーメン泊】
11/14 (水)	午前 午後	ブレーメン オルデンブルク	〈専用車にて移動〉 DMK社訪問 L U F A訪問 (DMK本社) (L U F A) 【ブレーメン泊】
11/15 (木)	午前 午後	ブレーメン ブレーメン近郊	〈専用車にて移動〉 農場視察① 酪農生産者との昼食交流会 (Thoden KG) 酪農視察② 市場調査 (Voslogger Milchhof KG) (Marketkauf) 【ブレーメン泊】
11/16 (金)	午前 午後	ブレーメン ハノーバー	〈専用車にて移動〉 EuroTier 2012視察 (ハノーバーメッセ) 【ブレーメン泊】
11/17 (土)	午前 午後	ブレーメン フランクフルト	〈専用車にて移動〉 市場調査 〈空路にて移動〉 ブレーメン→フランクフルト (KAUFhof食品売り場) 【フランクフルト泊】
11/18 (日)	午前	フランクフルト	〈空路にて日本へ〉 【機中泊】
11/19 (月)	午前	成田	帰国 <成田→羽田→空路にて北海道各地へ>

参加者氏名(敬称略)

リーダー 富田博文(士幌町コントラ会会長)
サブリーダー 片野博次(釧路太田酪農振興会副会長)
窪道弘昭(帶広大正農協)
黒坂宏哉(忠類農協)
七海 光(更別村農協)
和田光教(オホーツクはまなす農協青年部理事)
村田康則(えんゆう農協)
佐藤良介(宗谷南農協)

当社随行 木村武靖(酪農グループ課長)
宮野竜也(宗谷工場酪農担当)
杉田円和(経営企画室)

当社は平成24年11月12日～19日の8日間、第7回海外酪農視察研修を実施した。視察先は酪農が盛んなEU(欧州連合)の中でも最大の生乳生産量を誇るドイツ。参加者は酪農生産者8人。同国の低成本酪農を実践する牧場や系統乳業とのつながり等を学んだ内容を報告する。

EuroTier 2012

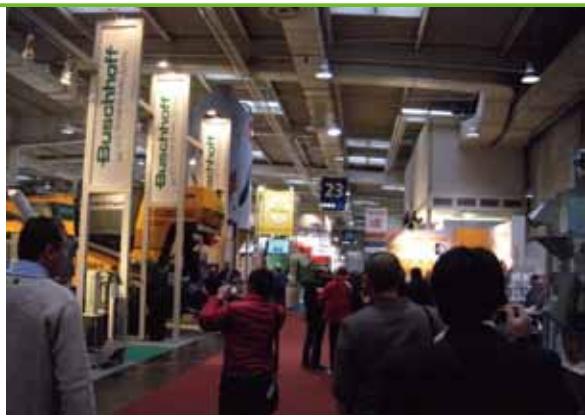
ユーロ ティア
EuroTierは2年に1度、ドイツ・ハノーバーメッセで開催される酪農・畜産関連の産業展示会。2,445社の企業が出展。ドイツ国外からは51カ国、過去最大規模の1137社が参加した。主催者のドイツ農業協会(DLG)によると、11月13日～16日までの開催期間中、世界中から過去最多の16万人が来場した。広さ25万m²に及ぶ会場では飼料をはじめ牛舎や機械類、アニマルヘルスまで幅広いテーマの展示やデモンストレーションが行われた。世界的にバイオエネルギーへの関心が高まっていることを反映した関連機器の特設コーナーも設置され、注目を集めている。



クッション性の高いゴムマット。
乳牛のコンディションに資する展示も充実



最新鋭の家畜糞尿のろ過システム



EuroTier会場



優良牛の展示スペース

牛乳乳製品市場調査(ブレーメン市内)

●市 乳

容器は紙パック1ℓが主流。価格は乳脂肪3.8%で0.95～1.39ユーロ(約100～146円、1ユーロ=105円換算)。乳脂肪1.5%で0.75ユーロ(約79円)。フレッシュ牛乳は、国内の製造割合が高い。日本との違いはLL牛乳の売場面積が広い点。長期保存が可能で大量購入できることが消費者に人気の理由で、飲用牛乳に占めるシェアは80%にのぼる。価格は乳脂肪3.5%が0.85ユーロ(約89円)だった。



●バター

容器はアルミ包装250gが主流。乳脂肪は82～85%が最も多く、価格は1.29～1.39ユーロ(約135～146円)。バターは国内製造が殆どだが、一部店頭に並んでいたフランス産の価格は250g乳脂肪80%で2.29ユーロ(約240円)。

●チーズ

多種多様のチーズが陳列販売されている。PEフィルムでパックされたスライスチーズは、ゴーダチーズ150g(乳脂肪48%)で1.69ユーロ(約177円)、ゴーダチーズより乳脂肪率が低いバターチーズ150g(乳脂肪45%)が同じく1.69ユーロで売られていた。DMK社のスライスチーズは150g(乳脂肪45%)が1.99ユーロ(約209円)で売られていた。Markt kaufでは乳業者製品のほか、店舗で製造したチーズの量り売りや、パック詰めした製品に多くのスペースが割かれていた。



富田リーダーの話

DMK社が全力で酪農生産者をバックアップしている様子がよく分かりました。国際化の波が押し寄せた。また、ドイツ第1位の乳業メーカーDMK社が全力で酪農生産者をバックアップするよう、頑張っていきたいと思います。今回の研修を今後の酪農経営に生かせるよう、頑張っていきたいと思います。視察研修に参加する機会にいただき、よつ葉乳業をはじめ関係機関には心より感謝申し上げます。

農場視察

●Thoden KG

1990年に兼業農家として経営を開始。計画的に牛舎を新築し、飼養頭数は当初の40頭から220頭にすべて自家繁殖にて増頭した。平均分娩間隔は386日で(北海道では平均430日前後)生産性を高めている。

Thoden KG の経営概要

経営耕地面積	160ha(デントコーン60ha、牧草地100ha)
乳牛飼養頭数	約220頭(肥育・育成を合わせると510頭)
労働人員	6名(うち研修生2名)
年間生産乳量	約2,090t(1頭当たり9,500kg)
平均乳成分	乳脂肪4.0%、乳タンパク3.4%、体細胞数20万前後
搾乳形態	パラレルパーラー(12頭W)、搾乳作業は1名で実施
飼養方法	グラスサイレージ(イタリアンライグラス)とコーン为主体。ビートパルプ、菜種・大豆・ビール粕を10%添加
牧草収穫	泥炭地であり、牧草は年5回刈り取り。作業の一部を業者に委託
糞尿処理	牛舎の床がコンクリートのスノコ状となっており、地下2mに糞尿をためている。糞尿は7カ月貯留可能で、ポンプで吸い上げて牧草地に散布する



牛舎の床はスノコ状に



パラレルパーラー(12頭W)



飼料について説明を受ける視察団一行

牛舎外観



牛舎外観



牛舎を見学する視察団一行



乳牛に給与するTMRは
コーンサイレージが主体

●Voslogger Milchhof KG

1998年に妻の父から経営を引き継ぎ、飼養頭数45頭からスタート。2012年、乳牛500頭規模の牛舎を新築した。

草地更新は2～4年間隔で実施し、栄養価の高いサイレージを収穫している。そのため購入飼料が少なく、低コスト酪農を実現している。

Voslogger Milchhof KG の経営概要

経営耕地面積	200ha(デントコーン100ha、牧草地100ha)
乳牛飼養頭数	360頭(肥育・育成を合わせると700頭)
労働人員	5名(うち従業員3名)
年間生産乳量	約3,240t(1頭当たり9,000kg)
平均乳成分	乳脂肪4.0%、乳タンパク3.5%
搾乳形態	パラレルパーラー(16頭W、1時間に150頭を搾乳)
飼養方法	自給飼料生産は作付、収穫、TMR調整まで一貫して業者に委託。1日の給餌はグラスサイレージ15kg、コーンサイレージ22kg。大豆・ビール粕を添加してTMR調整
牧草収穫	グラスサイレージ(イタリアンライグラス)は草丈80cmで収穫。年2回刈り取り
糞尿処理	スラリータンク形式

酪農生産者との昼食交流会



昼食交流会では日独双方の酪農事情について情報交換が行われた

視察先の現地酪農生産者との交流会では、ドイツ酪農の実情について情報を得た。

酪農後継者の教育は中学、または高校卒業後、3年間実地研修が可能な職業学校がある。

乳製品市場については①DMK社のシェアは10%程度、②EU加盟国との間には関税障壁が無いため、ドイツ国内の市場は常に競争に晒されている、③日本と同様、スーパーなど小売業者のバイイングパワーが強まっている、④商品価格は半年に一度改定され、その都度DMK社が小売側と交渉していることなどが語られた。